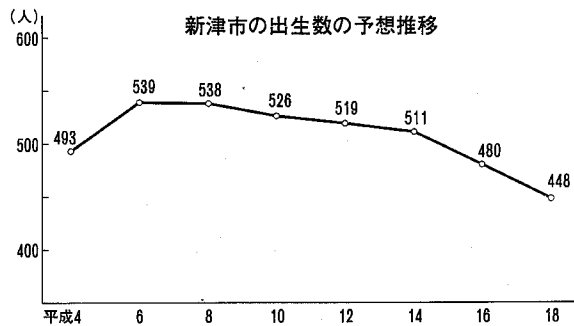


市内小学校の児童数の予想推移

学校名	昭和62年	平成4年	平成9年	平成4年 昭和62年	平成9年 昭和62年
一 小	1,003	773	664	0.77	0.66
二 小	963	801	607	0.83	0.63
満 日 小	157	151	116	0.96	0.74
結 小	1,013	951	776	0.94	0.77
市之瀬小	130	119	97	0.92	0.75
小合東小	199	164	122	0.82	0.61
小 合 小	223	200	171	0.90	0.77
金 津 小	609	613	546	1.01	0.90
阿 賀 小	253	216	207	0.85	0.82
新 関 小	191	183	174	0.96	0.91
三 小	789	753	703	0.95	0.89
合 計	5,530	4,924	4,183	平均 0.90	平均 0.77



し、少子化の進行を物語っています。平成四年以降、出生数は一時的な増加がみられるものの、ほぼ横ばい状態が続きます。そして、平成八年からは再び減少に転じ、その後は全体として減少傾向をたどっていくものと思われまます。そしてこの少子化が、小学校の児童数の減少に拍車をかけることになりまます。

次に、今後の児童数の動きを見てみます。左の表のとおり、児童数は昭和六十二年には五千五百三十人でした。これが平成四年には四千九百二十四人となり、平成九年には四千八百八十三人になる見込みで、十年間で約千四百人減少する計算です。

児童数の減少に
地域間格差が

この児童数を市内の小学校別にみると、全ての小学校で減少していきまます。その中で、児童数の減少する割合がいちばん高い小学校は小合東小で、以下、二小、一小、満日小の順になっています。逆に減少する割合がいちばん低い小学校は新関小で、以下、金津小、三小、阿賀小の順になっています。

このように、児童数の落ち込みは、中心市街地や人口の流出傾向にある地域では、比較的大きくなりまます。一方、市街地周辺で、人口の流入傾向にある地域や単に人口流出のない地域では、落ち込みは比較的小さく、児童数の減少に地域間格差が生じてくると考えられます。

少子化を見据えた
教育の充実

最後に、子どもの減少がこれからの教育環境にどんな影響を与えていくのでしょうか。

まず、子ども同士がふれあい、豊かな人間関係を形成する場が少なくなる可能性が出てきまます。また、例えばクラブ活動などは自由に参加できる機会も少なくなり、多様な社会に置き去りになることも考えられます。

今後は、教師が一人ひとりの子どもにより目を向け、自主性と個性を伸ばす教育を進めていかなければなりません。このことは、学校にゆとりを持たせる一つの方向につながるかと思ひまます。また、学校や家庭、地域が協力し、子どもの地域間交流や体験学習を充実させるなど、新しい枠組みの中で教育環境の整備に努めることも大切になってきまます。

お買物、ご用命は市内で

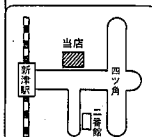
苺の季節

ビタミンCたっぷり粒ぞろい
フレッシュな苺が今まさかり
デザートに、おみやげに、
どうぞ!!



フレッシュでおいしい果物の店 **やまいし** 新津市本町3
TEL 23-0397

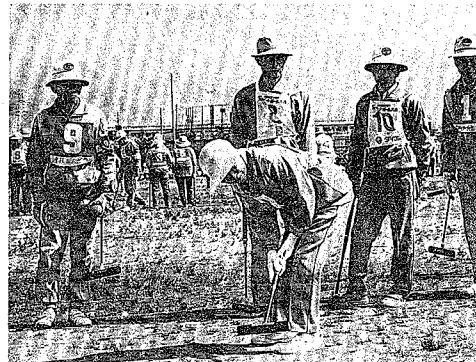
電気のことなら当店におまかせ!!



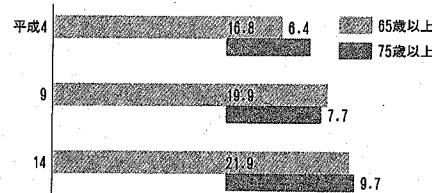
東芝・ソニー・ナショナル・日立
パイオニア・シャープ 他
何でも一度ご相談下さい。

スズム まるよし

本町1 ☎22-0061 FAX 22-3721



高齢人口比率の予想推移 (%)



このように、当市は全国的にみても高齢化が早く進んでいることが分かります。そして二十世紀には、お年寄りが四、五人に一人の割合で生活する「超高齢化社会のまち」になると思われまます。

また、こうした高齢化社会の進行に伴い、新たに生じてくる問題として、周囲の人たちの援助を必要とする高齢者世帯(六十五歳以上の一人だけで生活する家庭)の増加が挙げられます。

平成五年十二月現在、お年寄り

のみの家庭は市内で千七百二十世帯を数え、年々増加傾向にあります。これを地域別にみると、核家族化が比較的高進している市街地では高齢者世帯が多く、大家族の形態が比較的低進している市街地周辺地域では少なくなっています。今後はこうした地域の実情に応じて、お年寄りを支援する環境づくりが求められます。

出生数の減少はこれからも続く

高齢化とともに、最近注目されているのが出生数の減少(少子化)です。平成四年に全国で生まれた子どもの数は約百二十万人。これは十年前(昭和五十七年)に比べて、約三十万人少ない数です。こうした出生数の減少は、今後も続いていくと言われており、大きな社会問題になっていくと思ひまます。

こうした状況の中で、今後当市の出生数はどんな動きをみせるのでしょうか。三ページのグラフは、当市の出生数の動きを予想したものです。平成四年、出生数は四百九十三人で、これは昭和五十二年の約半分に相当

全国的に叫ばれている高齢化や少子化。今やこれらは現代社会の「第一の顔」として、大きな社会問題にまでなっています。新津市でも、お年寄りの数は年々増加のペースを早め、また出生数は減少に歯止めがかからない状況が続いています。私たちのまちでも進む高齢化と少子化。今回は、当市のお年寄りや子どもたちの人口の動きを予想してみました。

左のグラフは、当市の高齢人口比率(市内の六十五歳以上の人口比率)の動きを予想したものです。

人の割合)の動きを予想したものです。これをみますと、高齢人口比率は平成四年には一六・八%になっていきます。この比率は平成九年には一九・九%、平成十四年には二一・九%になると予想され、全国平均(平成九年で約一五%、平成十四年で約一八%)を上回るペースになっていきます。

高齢化・少子化の高波が
まちにやってくる

人口
予想



お買物、ご用命は市内で

ガス使用中は必ず換気をしましょう

開放型ガスストーブを
お使いの皆様へ

1時間に1回1分程度の
換気が目安です



ガスを使う時は、忘れずに必ず換気/
これ、ガスと上手につき合うコツよね。

越後天然ガス株式会社

新津 24-2171
荻川 25-2100